

第199回 原医研セミナーのご案内

下記のとおりセミナーを開催致します。多数ご参集下さい。

記

日時：平成29年 7月28日（金）午後5時～

場所：原医研研究棟3階セミナー室

演題：Inhibiting DAMPs signaling DAMPens GVHD

講師：山形大学 医学部 内科学第三講座(第三内科)

助教 東梅 友美 先生

同種造血細胞移植療法は血液悪性腫瘍に対する根治療法であるが、合併症である移植片対宿主病 (graft-versus-host disease: GVHD) の制御が同種移植成績向上には極めて重要な課題である。これまで明らかにされたメカニズムとして、1) 移植前処置による組織損傷とそれに伴う炎症性サイトカイン (IL-6、TNF- α など) の放出が引き金となり、2) ドナーおよびホスト血液細胞および非血液細胞由来の抗原提示細胞 (Antigen presenting cells: APCs) が活性化されることで、3) ドナーT細胞が刺激され Effector 細胞 (Th1 及び Th17) へと分化し、腸管、肝臓及び皮膚などの target organs へ集積した結果、組織破壊を引き起こすものと考えられている。また、近年は前処置に伴う腸管の microbiome の多様性変化と腸 GVHD との関連も指摘されている。このことから、前処置に伴う組織障害で放出される damage associated molecular patterns (DAMPs) が移植後早期の炎症及びアロ免疫反応において極めて重要な役割を果たしていることが示唆され、DAMPs mediated innate immune response を効果的に制御することで、GVHD 発症を抑制できる可能性があるが、そのメカニズムについては不明な点も多い。本講演では GVHD 発症における DAMPs の関与について、これまでの知見を整理するとともに、我々が発見した DAMPs mediated GVHD の負のフィードバック機構 (SiglecG-CD24 pathway) と、CD24 融合蛋白を利用した DAMPs signaling の効果的な抑制法が新たな GVHD 予防・治療法開発につながる可能性について将来的な展望も含めて解説する。

連絡先：広島大学原爆放射線医科学研究所
血液・腫瘍内科研究分野（内線 5861）

広島大学霞地区運営支援部総務グループ
082-257-1611（内線 6532）